

成宮まり子

参院京都選挙区候補

命守る議席必ず

》下

憲法を無傷で子らに

「この間行われた五つの公開討論会や新聞紙上討論会に出席して、改めて驚いたことがあります。それは、「格差と貧困をどうする。命と暮らしを守る」、「憲法改悪を許さない」と訴えたのが、日本共産党的だけだったということです」。参院京都選挙区候補の成宮さん(=ちが)が、一連の討論会を終えての確信です。

成宮さんの論戦力は、「こんな議論がほしかった」と関係者をうならせました。それは、参院選の焦点——憲法と格差・貧困——で各党各候補の違いを、浮き彫りにさせました。

「戦争国家」——「子どもの未来に戦争をする国だけは絶対つくりはいけない。私は母親として、憲法九条を無傷で子どもの世代に渡したい」「改憲の狙いは九条を変えて、海外でアメリカ力といっしょに戦争する国をつくること」。改憲の本質を指摘し、憲法を守る立場を語る成宮さん。

これに対して、自民候補は現行憲法を根本から否定し、「明治憲法にもどります」といいます。古川弁護士に「悲壮な決意」をさせた理由は、明治憲法復活!?

フェスティバル型公開討論会



西田

民・民主の候補者自身が軍隊の保有を中心とする強硬な改憲論者であることが明らかになりました。

憲法が、自民党や西田氏の主張する方向に変わってしまった後、自由にものが言えない状況がつくれることを危ぐするからです。古川弁護士は「今なら『おかしい』と声をあげられます。ここで踏み出さないといけない、瀬戸際にきていく感じます」といいます。

奥村さんが怒るのは、自民・西田候補の「女性が社会進出したことでの世の中が荒れ、教育が荒れた」との言明です。「多くの方が『そんな時代錯誤の発言は許されないわよ』と言います。子どもが生まれて仕事を辞めた方も多く、不安な方が子育てしています。働いている女性、家にいる女性、女性全体をべつ視した発言。許せないです」(おわり)

いま声あげるとき

ます。憲法は国民からの国にしばりをかけるものですが、西田氏は憲法二四条を変えて、彼の考える「正しい」家制度や家庭のあり方を、国民に押しつけ国民党をしぶりうどしてはいけません」

西田氏は憲法の見直しで子育てしていくべきだ。これが根本的に間違っています。成宮さんに期待を寄せ

る奥村陽子さん(=)は、「世代を問わず、どこのお母さんも望んでいるのは平和です。『自民党の候補者は、明治憲法を復活させるべきと考えている』というと、みんな『えーっ』と驚きます。民主党も改憲を言っていました。憲法を守るという意識の人物を国会議員にしてはいけません」